

# 令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果と今後の指導について

羽島市立羽島中学校

## 数学

### 1 問題の結果

|        |                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 領域毎の結果 | 「数と式」「図形」「資料の活用」の領域において、全国の平均正答率を大きく上回った。<br>「関数」の領域においては、全国の平均正答率をやや下回った。 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 設問毎の結果 | 全国の平均正答率を上回った設問例                                                           | <ul style="list-style-type: none"><li>・確率の必要性と意味を理解し、簡単な場合について確率を求めること（資料の活用）〔数学的な技能 第2学年〕</li><li>・平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解すること（図形）〔数量や図形などについての知識・理解 第2学年〕</li><li>・文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解すること、また、目的に応じて、簡単な式を変形すること（数と式）〔数学的な見方や考え方 第2学年〕</li></ul> |
|        | 全国の平均正答率を下回った設問                                                            | <ul style="list-style-type: none"><li>・正の数と負の数の必要性と意味を理解すること（数と式）〔数量や図形などについての知識・理解 第1学年〕</li><li>・比例、反比例を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を理解すること（関数）〔数学的な技能 第1学年〕</li></ul>                                                                                                   |

### 2 今後の指導について

- ・領域別でみたときに、全国の平均正答率をやや下回った「関数」に関しては、単元内における指導計画を見直し、改善を図っていく。

具体的には、

- ①小学校第4学年から第6学年までの学習内容や、数学科と算数科との学習の違いを再確認し、つかんだ生徒の実態に応じて、単位時間における指導援助の工夫をする。
- ②第1学年から第3学年まで、学習する関数は異なるが、いずれにおいても、変化や対応の特徴をとらえ、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し、表現することを繰り返し行い、理解を深められるようにする。

- ・問題形式別でみたときに、「選択式」・「短答式」・「記述式」いずれにおいても全国の平均正答率を上回っている。また、全ての問題において「無解答率」は低いですが、本校としてみたときに「記述式」の問題が他の問題よりもやや「無解答率」が高かった。そのため、思考力・表現力を高めていく授業づくりに努める。

具体的には、

- ①言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて、数量や図形などに関する事実や思考の過程、判断の根拠などを的確に表現したり、考えたことや工夫したことなどを数学的な表現を用いて伝え合うことで共有したり、見いだしたことや思考の過程、判断の根拠などを数学的に説明したりする活動を充実させる。
- ②図形の証明においては、課題に対して自分なりに「証明を書くこと」を大切にするだけでなく、交流を通して、互いの「証明を読むこと」で、分かりにくい点や不足している点、過度に記されている点を加筆修正しながら、よりよいものにしていくことで、論理的に思考し、表現する力を養っていく。